

# 2021年12月期 第2四半期 決算説明資料

協和キリン株式会社

The logo for Kyowa Kirin, featuring a stylized 'K' icon followed by the text 'Kyowa KIRIN' in a bold, sans-serif font. The logo is positioned on an orange semi-circular background element at the bottom right of the page.

**Kyowa KIRIN**

## アジェンダ

財務レビュー  
 コマーシャルアップデート  
 R&Dアップデート

代表取締役社長 宮本昌志

## Q&A

代表取締役社長 宮本昌志  
 執行役員 財務経理部長 川口元彦  
 執行役員 研究開発本部長 鳥居義史  
 執行役員 グローバル製品戦略部長 須藤友浩

本資料には、当社（国内外の連結子会社を含む）の見通し、目標、計画など、将来に関する記述が含まれています。これら将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報や予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は、投資家の皆様に向けて情報を提供することを目的としたものであり、内容には医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 財務レビュー

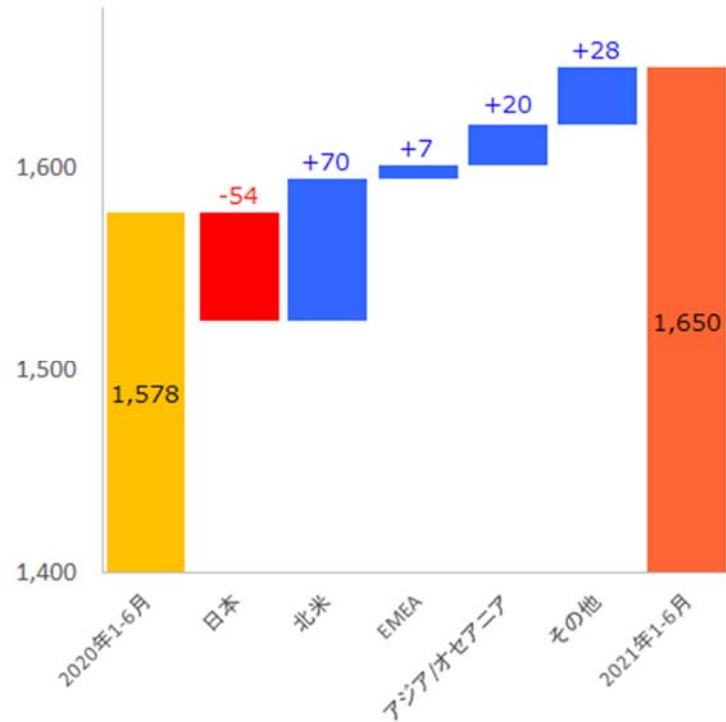
# Q2決算サマリー

(単位は億円、単位未満四捨五入)

	2020年 Q2実績	2021年 Q2実績	増減	2021年 通期予想	進捗率
売上収益 [海外売上比率]	1,578 [46%]	1,650 [52%]	+72 (+5%)	3,510 [54%]	47%
売上総利益 [売上総利益率]	1,169 [74%]	1,238 [75%]	+69 (+6%)	2,700 [77%]	46%
販売費及び一般管理費 [販管費率]	582 [37%]	672 [41%]	+90 (+15%)	1,410 [40%]	48%
研究開発費 [研究開発費率]	241 [15%]	265 [16%]	+24 (+10%)	650 [19%]	41%
持分法投資損益	-1	9	+10 (-)	10	92%
コア営業利益 [コア営業利益率]	345 [22%]	309 [19%]	-35 (-10%)	650 [19%]	48%
四半期利益	278	251	-27 (-10%)	500	50%

# 前年対比分析～売上収益～

**売上収益 +72億円  
(うち為替 +15億円)**



## ● 日本 -54億円

グリースピータ・ハルロピ・ダーブロック(新製品)、ジールスタ(市場拡大・市場回復)、パタノール(花粉飛散量増加)等が増収。一方、ネスブAG(競合影響)やロミプレート(出荷調整)の減収に加え、2020年4月および2021年4月の薬価改定ならびに共同販売等終了(アサコール・ミニリンメルト・デスマプレシ)による減収影響あり。

## ● 北米 +70億円 (うち為替-6億円)

CrysvitaおよびNourianzが堅調に成長。コロナ影響を受けていたPoteligeoは市場回復の兆しあり。

## ● EMEA +7億円 (うち為替+17億円)

Crysvitaは上市国の拡大および青少年/成人への適応拡大により増収。2020年6月より欧州展開を始めたPoteligeoも増収。一方、後発品影響および出荷調整によりAbstralが減収。

## ● アジア/オセアニア +20億円 (うち為替+7億円)

Regparaを中心に中国事業が好調に進捗。

## ● その他 +28億円 (うち為替-3億円)

ファセンラ(ベンラズマブ)の売上ロイヤルティが順調に増加。加えて、Aevi社より抗LIGHT抗体の権利許諾契約一時金を受領(USD10M)。

# 主要アイテムの売上収益(日本)

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2020年			増減要因	2021年	
	Q2実績	Q2実績	前年比		通期予想	進捗率
ネスプ+ネスプAG*1	146	129	-17 (-11%)	バイオシミラー浸透 ・薬価改定	232	56%
ネスプ	22	19	-3 (-14%)		38	50%
ネスプAG	124	110	-14 (-11%)		194	57%
ダブロック	-	5	+5 (-)	2020.8発売	40	14%
レグパラ	20	15	-5 (-26%)		20	73%
オルケディア	43	46	+4 (+9%)		104	45%
ジーラスタ	128	138	+10 (+8%)	市場拡大・市場回復	298	46%
ポテラジオ	10	9	-0 (-4%)		20	48%
リツキシマブBS	54	53	-1 (-3%)		115	46%
ロミプレート	41	28	-12 (-31%)	出荷調整(2020.6-2021.3)	87	32%
アレロック	49	48	-0 (-0%)		68	71%
パタノール	71	78	+6 (+8%)	花粉飛散量増	109	71%
ノウリアスト	46	42	-4 (-9%)	競合品浸透	91	46%
ハルロピ	2	13	+11 (+457%)	2019.12発売	46	29%
クリースビータ	13	33	+20 (+153%)	2019.12発売	55	61%
技術収入	10	13	+3 (+27%)		25	54%

\*1 正式名はダルベポエチナルファ注シリンジ「KKF」。製造販売元は協和キリンフロンティア株式会社、販売元は協和キリン株式会社。

# 主要アイテムの売上収益(海外)

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2020年		2021年		増減要因	2021年	
	Q2実績	Q2実績	前年比	前年比		通期予想	進捗率
Crysvita	247	354	+107 (+43%)		[北米] 市場浸透・適応拡大(TIO)	772	46%
北米	192	257	+65 (+34%)		[EMEA] 上市国拡大・適応拡大(成人)		
EMEA	56	97	+41 (+75%)				
Poteligeo	54	70	+16 (+30%)		[北米] 市場回復の兆し	173	40%
北米	54	58	+5 (+9%)		[EMEA] 2020.6 ドイツ発売・上市国拡大		
EMEA	0	11	+11 (-)				
Nourianz	10	19	+10 (+102%)		市場浸透	67	29%
Abstral	58	40	-18 (-31%)		後発品影響・出荷調整	81	50%
Regpara	39	46	+7 (+18%)		2018.10 中国NEDL <sup>*1</sup> 収載	93	49%
技術収入	70	91	+21 (+31%)		ファセンラの伸長・抗LIGHT抗体の 権利許諾契約一時金等	237	38%
ベンタリズムブ ロイヤルティ <sup>*2</sup>	52	71	+19 (+37%)				

\*1 National Essential Drug List

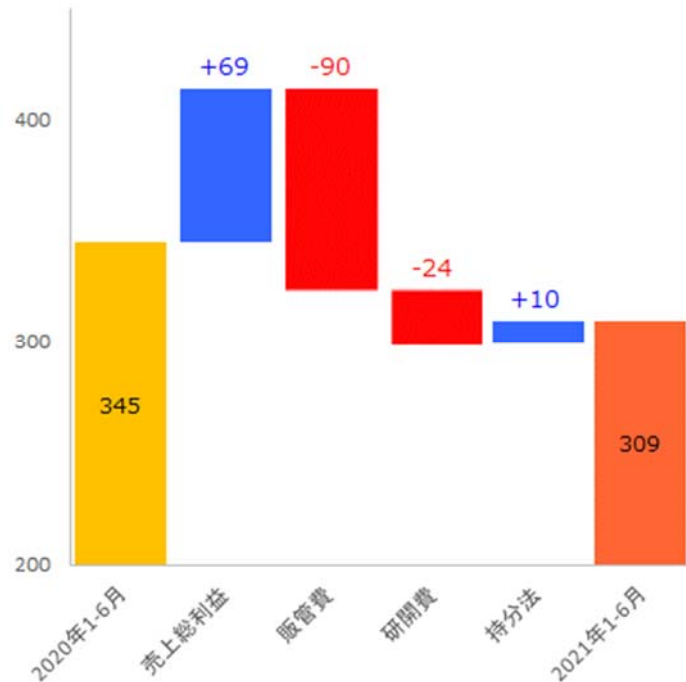
\*2 アストラゼネカ社が販売するファセンラの売上ロイヤルティ(当社独自の見積もりを含む)

※ 上記の主要アイテムの売上収益には、Early Access Program(EAP)による収益は含まれておりません。



# 前年対比分析～コア営業利益～

**コア営業利益 -35億円  
(うち為替 +2億円)**



- **売上総利益 +69億円 (うち為替+11億円)**

売上収益増加(+72億円)に伴う増益。売上総利益率は1%アップ(74%→75%)。

- **販売費及び一般管理費 -90億円 (うち為替-9億円)**

グローバル戦略品の価値最大化と競争力あるグローバルビジネス基盤の早期確立に向けた販売費及び一般管理費の増加。

[販売促進費-34億円(Crysvitaの北米プロフィットシェア費用を含む)、人件費-25億円、その他-31億円]

- **研究開発費 -24億円 (うち為替+1億円)**

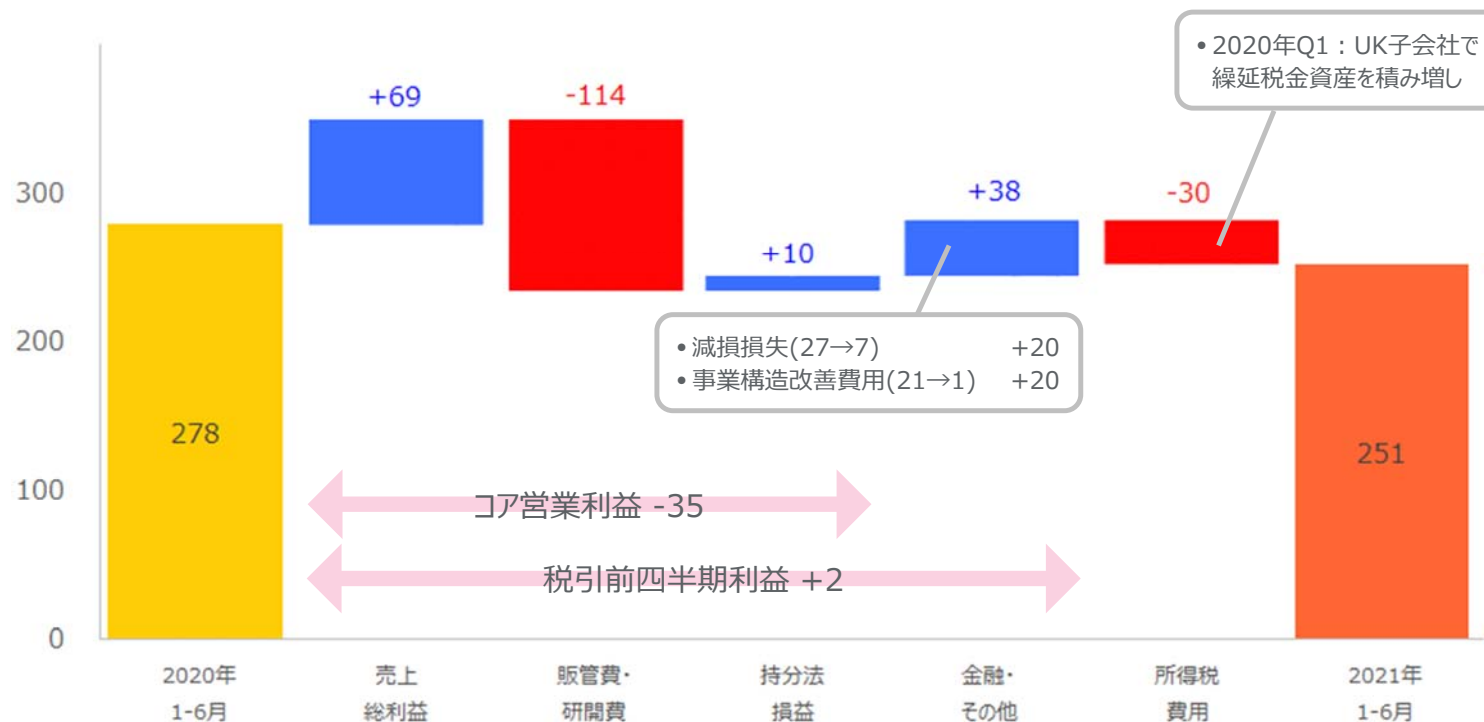
ME-401およびKHK7791の開発費用が増加。

- **持分法投資損益 +10億円**

Hulio(FKB327/アダリムマブBS)の売上が順調に増加。

# 前年対比分析～四半期利益～

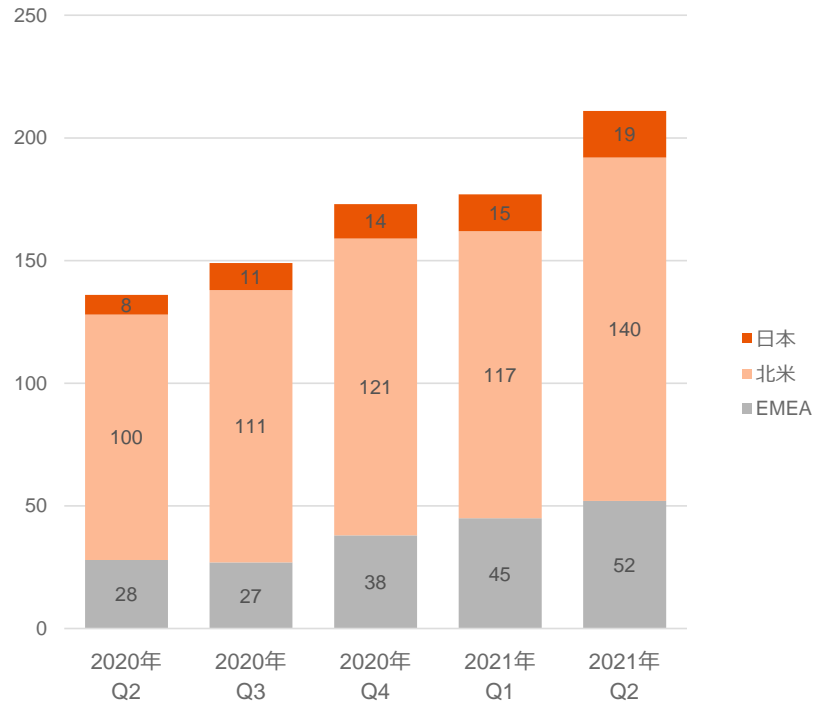
四半期利益(1-6月) -27億円



# コマ-シャルアップデート



(億円)



### トピックス

- 北米：新規治療患者数の推移順調
- EMEA：EU-自己注承認、ドイツ-成人の適応拡大が寄与
- AP：中国-上市に向けた準備順調、シンガポール-XLH承認

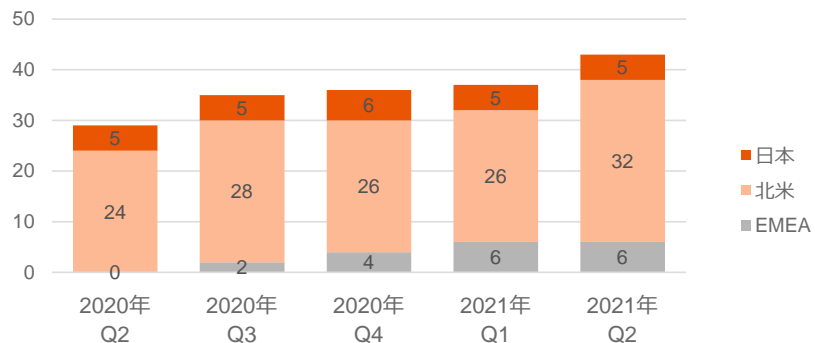
### XLH上市国・地域（2021年6月末現在、南米除く）

南米を除く、下線は小児・成人上市国

太字は第2四半期の新規上市

アメリカ、カナダ、ドイツ、オランダ、ルクセンブルク、イングランド、ウェールズ、北アイルランド、スロバキア、スウェーデン、イスラエル、UAE、チェコ、デンマーク、イタリア、日本、ノルウェー、バーレーン、スコットランド、オマーン、クウェート、カタール、ルーマニア、スロベニア、フランス、フィンランド、エストニア、スペイン、アイルランド、ハンガリー、ベルギー、サウジアラビア、香港

(億円)



### トピックス

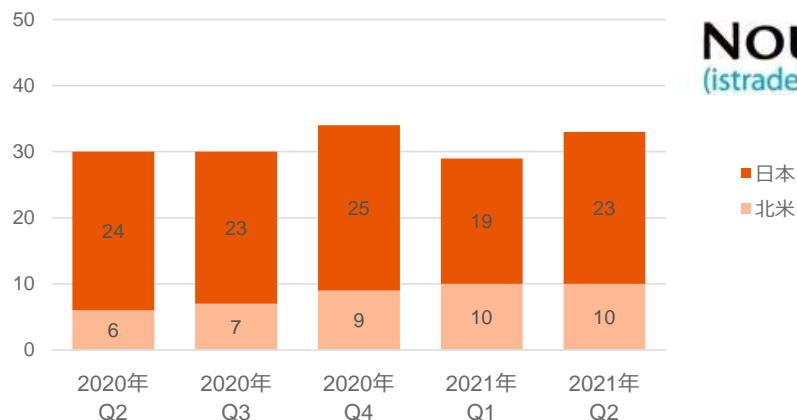
- 血液腫瘍を伴う症例の治療効果を確認
- 北米：売上改善(市場回復の兆し)
- EMEA: COVID-19影響により償還交渉遅延
- アジア：中国-承認申請(6月)

### 上市国 (2021年6月末現在)

太字は第2四半期の新規上市

日本、アメリカ、ドイツ、オーストリア、ルクセンブルグ、イタリア、**スコットランド、オランダ、ベルギー、スロベニア、デンマーク**

(億円)



**NOURIANZ**  
(istradefylline) tablets

### トピックス

- 日本：競合品の影響
- 北米：ターゲティングなど市場浸透対策中
- 欧州：医薬品評価委員会(CHMP)が、承認について否定的な見解を発表

### 上市国 (2021年6月末現在)

日本、アメリカ

# ビジネストピックス

## KHK4083の共同開発・販売に関する契約を米国アムジェン社と締結（6/ 1 開示済）

- 当社が創製しグローバル開発中のヒト型抗OX40モノクローナル抗体KHK4083について、当社は米国アムジェン社と共同開発・販売に関する契約を2021年6月1日に締結。  
※本契約は米国の独占禁止法に基づく待機期間が終了したことを受けて、2021年7月31日に発効。
- この提携により、当社はアムジェン社より契約一時金として400百万ドル、条件に応じたマイルストーンとして最大850百万ドル、および、日本を除く全世界での売上に対するロイヤルティを受け取る。
- KHK4083はアトピー性皮膚炎の新たな治療選択肢となりうるユニークな作用機序をもち、その他の自己免疫疾患等に対する治療薬の可能性も期待できる。

# R&Dアップデート



# 次世代戦略品のニュースフロー

✓: 達成済みイベント (2021年1月1日~5月6日)

✓: 達成済みイベント (2021年5月7日~8月3日)

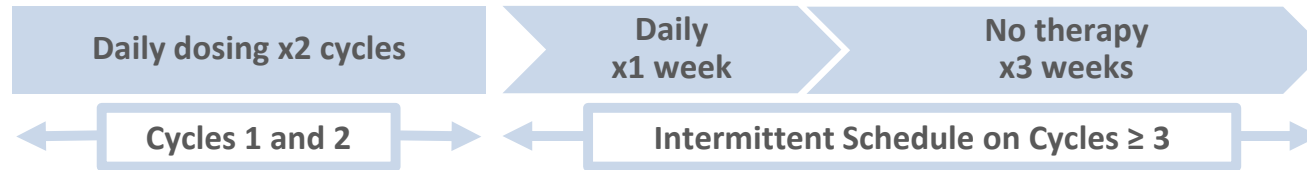
開発コード 一般名	標的疾患	2021年上期	2021年下期	2022年上期
KHK4083	アトピー性皮膚炎	P2b トップラインデータ ✓	P2b 詳細データ	P3 開始
KW-6356	パーキンソン病			P2b 詳細データ P3 開始
ME-401 Zandelisib	FL (3L, 単剤)	P2 LPI ✓	P2 トップラインデータ	
	MZL (3L, 単剤)	P2 FPI ✓		
	FL/MZL (2L, 併用)		P3 FPI	
RTA 402 Bardoxolone methyl	アルポート症候群		申請 (JP) ✓	★ <sup>1</sup> (JP)
	糖尿病性腎臓病			
	ADPKD	P3 FPI (JP) ✓		
KHK7791 Tenapanor	透析施行中の高リン血症	P3 FPI (JP) ✓		

\*1 ★は規制当局の承認可否判断が期待される時期

FPI: first patient in, 最初の患者登録日; LPI: last patient in, 最終患者登録日; FL: follicular lymphoma, 濾胞性リンパ腫; MZL: marginal zone lymphoma, 辺縁帯リンパ腫;  
ADPKD: autosomal dominant polycystic kidney disease, 常染色体優性多発性嚢胞腎

# Zandelisib: 再発または難治性のFL症例を対象とした第1b相臨床試験の新規データ

## ■ 治療：間歇投与法によるZandelisib単剤またはリツキシマブとの併用療法



FL症例の予後不良因子であるPOD24に該当する症例においても良好な奏効率を示した

	POD 24 N = 22	Non-POD24 N = 15	Total N = 37
ORR, N(%)	18 (82%)	14 (93%)	32 (87%)
- Monotherapy	8/11 (73%)	6/7 (86%)	14/18 (78%)
- Combination with rituximab	10/11 (91%)	8/8 (100%)	18/19 (95%)
Prior lines of therapy			
- 1 line of prior therapy	5/7 (71%)	9/9 (100%)	14/16 (88%)
- ≥ 2 lines of treatment	13/15 (87%)	5/6 (83%)	18/21 (86%)
CR rate, N (%)	4 (18%)	6 (40%)	10 (27%)

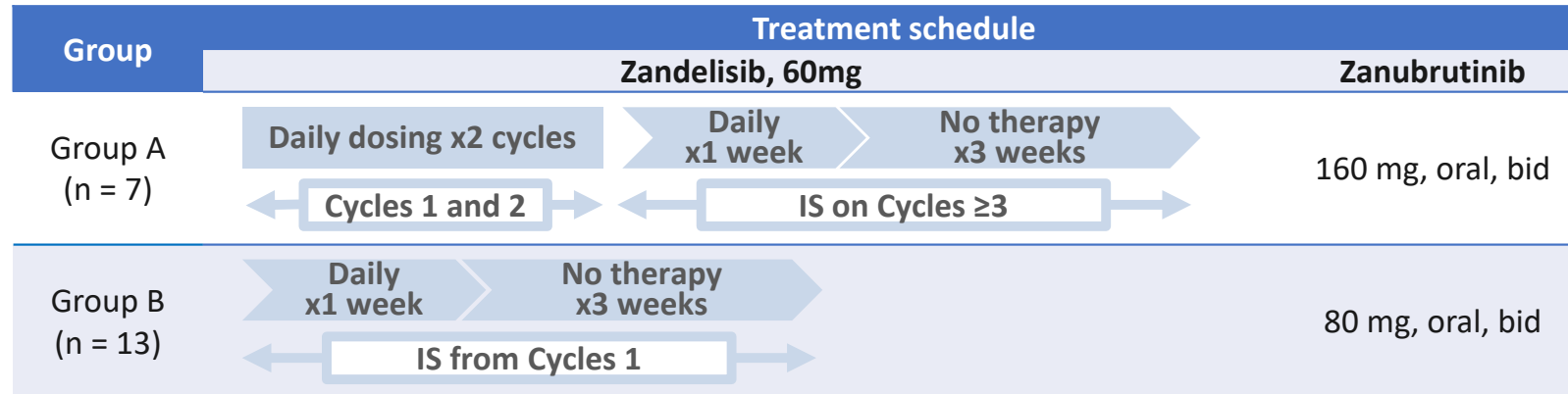
忍容性も概ね良好であり、有害事象による中止率は8%であった

Grade ≥ 3 Adverse Events in ≥ 2 Patients, N (%)	N = 37
Neutropenia	6 (16)
ALT/AST increased	3 (8)
Rash	3 (8)
Diarrhea	2 (5)
Colitis	2 (5)
Hypokalemia	2 (5)
Hyponatremia	2 (5)
COVID-19 infection	2 (5)

\* POD24: progression of disease within 24 months of first-line chemoimmunotherapy



# Zandelisib: B細胞悪性腫瘍症例を対象とした、zanubrutinibとの併用による第1b相臨床試験の新規データ



Group B のレジメンにて良好な忍容性が示された

Grade 3-4 AESI, N (%)	Group A N = 7 (%)	Group B N = 13 (%)
ALT / AST increased	2 (29%)	2 (15%)
Rash	1 (14%)	0
CMV colitis	1 (14%)	0
Pneumonia	1 (14%)	0
Diarrhea	0	0
Atrial fibrillation	0	0

iNHL及びCLL症例での奏効率は100%であった

Evaluable N = 18	FL N = 8	CLL/SLL N = 5	MZL N = 2	MCL N = 1	DLBCL/HGBCL N = 2
ORR, N (%)	8 (100%)	5 (100%)	2 (100%)	1 (100%)	0
Group A	1 (100%)	3 (100%)	1 (100%)	1 (100%)	0
Group B	7 (100%)	2 (100%)	1 (100%)	0	0

Regimen Bにて再発または難治性のFLおよびMCLを対象とした拡大コホートの登録を継続中

## Zandelisibの価値を拡大するための開発戦略

### Zandelisib Single Agent

- Ph 2 Study TIDAL in 3L+ FL and MZL
- Ph 2 Study K02 in 3L+ in iNHL (Japan)

### Zandelisib + Rituximab

- Ph 3 Study COASTAL in 2L+ FL and MZL

### Other Zandelisib Combinations

- + Zanubrutinib in FL and MCL in 2L+
- + R-CHOP in DLBCL in 1L
- + Ven-R in CLL

CLL: 慢性リンパ性白血病; DLBCL: びまん性大細胞型B細胞リンパ腫; FL: 濾胞性リンパ腫; iNHL: 低悪性度B細胞リンパ腫; MCL: マントル細胞リンパ腫; MZL: 辺縁帯リンパ腫;  
R-CHOP: リツキシマブ・シクロホスファミド・ドキシルピシン・ビンクリスチン・プレドニゾン併用療法; Ven-R: ベネトクラクスーリツキシマブ併用療法

# Appendix

# 為替関連情報

## 期中平均為替レート

通貨	2020年 Q2実績	2021年 Q2実績	前年比	2021年 通期予想
米ドル (USD/円)	109円	107円	-2円	105円
英ポンド (GBP/円)	138円	147円	+9円	140円

## 2021年Q2 為替影響額

通貨	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD/円)	-10億円	-5億円
英ポンド (GBP/円)	+17億円	+3億円

## 2021年度 為替感応度

通貨	変動	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD/円)	1円高	-9億円	-5億円
英ポンド (GBP/円)	1円高	-4億円	-1億円

# Crysvita ~Ultragenyx社とのコラボレーション~

地域	経済条件
アメリカ・カナダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンが売上計上</li> <li>発売後5年間は50/50プロフィットシェア</li> <li>発売後6年目からはUltragenyxに段階的な販売ロイヤルティ支払い(20%台中~後半)</li> <li>製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%</li> </ul>
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンが売上計上</li> <li>Ultragenyxに10%以下の販売ロイヤルティ支払い</li> </ul> <p>※Ultragenyxは販売ロイヤルティを受け取る権利をRoyalty Pharmaに譲渡(2020年度~)</p>
ラテン アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ultragenyxが売上計上</li> <li>協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(1桁台前半)</li> <li>製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%</li> </ul>
トルコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ultragenyxが売上計上</li> <li>協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(20%以下)</li> </ul>
アジア・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンが売上計上</li> </ul>

※すべての地域において製品供給は協和キリンが行う。

# KHK4083 ～Amgen社とのコラボレーション～

	アメリカ	欧州、アジア (日本を除く)	日本
開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgenが治験主導</li> <li>開発コストは両社で折半</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgenが治験主導</li> <li>開発コストは両社で折半</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンが治験主導</li> </ul>
販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgenが販売、売上計上</li> <li>協和キリンはコプロモーション、費用を両社で折半</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgenが販売、売上計上</li> <li>協和キリンはコプロモーションのオプトイン権利を保有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンが販売、売上計上</li> </ul>
売上ロイヤルティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領</li> </ul>	
製品供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgen</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Amgen</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協和キリン</li> </ul>

協和キリンは、契約一時金（400 百万ドル）のほか、今後、条件に応じたマイルストーン収入（累計で最大850百万ドル）と販売ロイヤルティをAmgen社より受領予定



# 次世代戦略品の開発予定

★：当局による承認可否判断が期待される時期

ト：トップラインデータ 詳：詳細データ

2021年8月3日現在

開発コード 一般名	標的疾患	2021	2022	2023	+
KHK4083	Atopic dermatitis	P2b ト 詳			
		P3			
KW-6356	Parkinson's disease	P2b	詳		
		P3			
ME-401 Zandelisib	FL (単剤, 3L)	P2	ト		
	MZL (単剤, 3L)	P2			
	FL/MZL (併用, 2L)	P3			
	iNHL (単剤, 3L)	P2			
RTA 402 Bardoxolone methyl	Alport syndrome		申請*1	★*1	
	Diabetic kidney disease	P3			
	ADPKD	P3			
KHK7791 Tenapanor	Hyperphosphatemia under maintenance dialysis	P3			
		P3			
		P3			
		P3			

\*1 日本、★は規制当局の承認可否判断が想定される時期

FL:濾胞性リンパ腫; MZL:辺縁帯リンパ腫; iB-NHL:低悪性度B細胞リンパ腫; ADPKD:常染色体優性多発性嚢胞腎; 2L: 2次治療; 3L: 3次治療

# 推定患者数

疾患	国/地域	発生率	有病率*	出典
ATL	日本	1,150 / 年		本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策 平成21年度総括研究報告書 (山口一成、平成22年3月)
PTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
CTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
CTCL	米国	1,500 / 年		SEER Data (2001-2007)
XLH	日本	1:20,000	成人: 5,000 小児: 1,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; Nationwide survey of fibroblast growth factor 23 (FGF23)-related hypophosphatemic diseases in Japan: prevalence, biochemical data and treatment. (Endo I et al., Endocr J., 2015)
XLH	欧州	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算
XLH	米国	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; New perspectives on the biology and treatment of X-linked hypophosphatemic rickets. (Carpenter TO, Pediatr Clin North Am., 1997)
TIO	日本		30	2010年 厚生労働省 ホルモン受容機構異常に関する疫学調査研究
TIO	米国		500-1,000	Ultragenyx社調査
AD	日本、北米、欧州		30,000,000	Decision Resources社調査
PD	日本		162,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
PD	米国	60,000 / 年	~1,000,000	Parkinson's Foundation (2021年7月現在) から引用 <a href="https://www.parkinson.org/Understanding-Parkinsons/Statistics">https://www.parkinson.org/Understanding-Parkinsons/Statistics</a>
FL	米国	15,000 / 年		Cancer.net (2021年7月現在) から引用 <a href="https://www.cancer.net/">https://www.cancer.net/</a>
FL	日本	6,750 / 年		国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録); Epidemiology of malignant lymphoma and recent progress in research on adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan (Miyoshi H et al., Int J Hematol, 2018)
MZL	米国	6,000 / 年		Lymphoma.org (2021年7月現在) から引用 <a href="https://lymphoma.org/">https://lymphoma.org/</a>
MZL	日本	1,060 / 年		国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録); Epidemiology of malignant lymphoma and recent progress in research on adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan (Miyoshi H et al., Int J Hematol, 2018)
AS	日本		1,200	難病情報センターホームページ (2021年7月現在) から引用 <a href="https://www.nanbyou.or.jp/entry/4348">https://www.nanbyou.or.jp/entry/4348</a>
ADPKD	日本		31,000	難病情報センターホームページ (2021年7月現在) から引用 <a href="https://www.nanbyou.or.jp/entry/295">https://www.nanbyou.or.jp/entry/295</a>
CKD	日本		13,300,000	日本腎臓学会 CKD診療ガイド2012
CKD (透析)	日本	40,885 / 年	344,640	日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2019年末)」

\* 有病率は国または地域の全人口あたりの推定人数

# 略語集

AD	Atopic Dermatitis	アトピー性皮膚炎
AG	Authorized Generic	オーソライズド・ジェネリック
ATL	Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma	成人T細胞白血病リンパ腫
BS	Biosimilar	バイオ後続品
CKD	Chronic Kidney Disease	慢性腎臓病
CLL	Chronic Lymphocytic Leukemia	慢性リンパ性白血病
DKD	Diabetic Kidney Disease	糖尿病性腎臓病
DLBCL	Diffuse Large B-Cell Lymphoma	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
FL	Follicular Lymphoma	濾胞性リンパ腫
iNHL	Indolent B-cell Non-Hodgkin Lymphoma	低悪性度B細胞リンパ腫
MCL	Mantle Cell Lymphoma	マンテル細胞リンパ腫
MZL	Marginal Zone Lymphoma	辺縁帯リンパ腫
PD	Parkinson's Disease	パーキンソン病
PTCL	Peripheral T-Cell Lymphoma	末梢性T細胞リンパ腫
R-CHOP	Rituximab- Cyclophosphamide/Hydroxydaunorubicin(doxorubicin) /Oncovin(vincristine)/Prednisone	リツキシマブーシクロホスファミド・ドキシソルビシン・ ビンクリスチン・プレドニゾン併用療法
TIO	Tumor Induced Osteomalacia	腫瘍性骨軟化症
Ven-R	Venetoclax-Rituximab	ベネトクラクスーリツキシマブ併用療法
XLH	X-linked Hypophosphatemia	X染色体連鎖性低リン血症



～本資料のお問合せ先～

協和キリン株式会社  
コーポレートコミュニケーション部 IRグループ  
03-5205-7206 / [ir@kyowakirin.com](mailto:ir@kyowakirin.com)